

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301963		
法人名	公益財団法人 シルバーリハビリテーション協会		
事業所名	グループホーム市川		
所在地	青森県八戸市大字市川町字南尻引84-1		
自己評価作成日	令和 2年 7月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和2年8月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駐車場が広いので利用者様の気分転換に散歩や草花の水やり、手入れ等を一緒に行っている。 毎年、夏には家族と一緒に施設での夏祭りを楽しんでいる。地域の方々にも訪問していただき、大正琴や和太鼓、オカリナの生演奏等を披露しもらい、利用者様も大変喜ばれている。外出の機会もなるべく増やし、初詣や花見、紅葉ドライブ、ランチツアー等、季節ごとの行事にも力を入れている。 (※現在は新型コロナウイルス感染防止のため訪問や外出等は極力控えてもらっている。) 職員一同、利用者様一人ひとりに向き合い寄り添ったケアに心掛けて対応している。同じグループ内には、多種の事業所があり多方面で協力が得られ、医療連携も充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「私たちは、笑顔の絶えない明るく暖かな雰囲気の中で利用者様と共に行動し、個人の能力を最大限に引き出すことで自信を持っていただけるように、`心に寄り添ったケア`を提供致します。」という事業所独自の理念が作成され、この理念を基に地域密着型サービスに取り組んでいる。建物は、機械警備であるアルソックが入り利用者は安心した環境の中で日常生活を送ることができるようになっている。また2年前より、利用者個別の介護計画にリハビリ訓練を取り入れ、利用者の身体機能の維持向上にも取り組んでいるほか、職員同士のコミュニケーションがよく取れていることから、利用者は思い思いに落ち着いて過ごされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成している。地域に根ざした施設を目標とし、利用者様本位の支援を心がける理念となっていて、全職員に周知し、共有している。	「私たちは、笑顔の絶えない明るく暖かな雰囲気の中で利用者様と共に行動し、個人の能力を最大限に引き出すことで自信を持っていただけるように、`心に寄り添ったケア`を提供します。」という独自の理念が掲示され、全職員で共有されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に運営推進会議に参加していただいたり、町内会の集まりに参加している。またイベント等を利用し、地域サークルの方々を招き交流を深めている。現在は新型コロナウイルス感染防止のため極力控えている。	年3回発行の広報誌を地域に配布することを通して、地域の方々とコミュニケーションを図ったり、夏祭りや地域サークルの訪問を受け入れる等、地域の方々との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に対応し、認知症の方々の暮らしや活動を紹介している。ボランティアの受け入れも行っている。その際は、利用者様のプライバシーに充分配慮している。現在は新型コロナウイルス感染防止のため、見学やボランティアの受け入れ等は控えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族にもメンバーとして参加していただき、情報交換や意見交換等を行い、サービス向上に繋げている。現在は新型コロナウイルス感染防止のため、書面で意見を貰って実施している。	通常、運営推進会議は2ヶ月に1回実施しているが、現在はコロナの影響により書面により委員の方々から意見をいただいております。今後のサービス向上に生かせるように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自己評価の報告や日々の運営の質問等、会議の場を利用して伝え、協力関係の構築に努めている。また、新型コロナウイルスの対策を含め、行政と連携を図り、情報を共有しながら取り組んでいる。	推進会議には、高齢者支援センター職員が参加しており、運営等のアドバイスをいただいているほか、行政担当者からも、いつでも相談や助言をいただける体制となっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会に参加し、理解を深め、身体拘束にならないケアを話し合いながら実施している。また、身体拘束禁止対象チェック表等を設け、身体拘束を行わないという姿勢で全職員は日々のケアに取り組んでいる。	管理者、職員は、身体拘束についてのマニュアルを作成し勉強を行っているほか、身体拘束対象チェック表を活用する等、身体拘束を行わない姿勢で取り組んでいる。また、外出傾向の利用者には、職員が付き添う等の支援を行っているほか、無断外出時は近隣からの協力が得られる体制になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会や研修に参加し理解を深めて、虐待につながる言動や行動に注意しながら対応している。虐待防止マニュアルがある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業及び成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要に応じて利用者様や家族に情報提供している。外部研修の参加も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用約款や重要事項説明書等を用いて十分な説明を行い、疑問や質問にはその都度対応している。また、利用料金等の契約改定時にも十分に説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や満足度調査を行い、意見を反映している。また、面会時には生活の様子を話しながら思いや意見を引き出すように心がけている。	事業所内には意見箱の設置がされているほか、利用者満足度調査を行う等、意見を出してもらえるような取り組みを行っている。また、出された意見や苦情等については内部で検討し、運営に生かすような取り組みがされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のスタッフ会議や面談の機会を設けて意見や提案を反映させている。また、職員の意見を聞きながら勤務体制を整えている。	スタッフ会議等において、職員ができるだけ意見や提案ができるようにしており、会議等で出された事項については運営に反映させるようにしている。また、職員の勤務体制や休暇希望等、職員の意見もできる限り取り入れるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の事情に合わせて可能な限り勤務調整を行っている。また、定期的に健康診断等を実施し、職員の健康を保つための体制を整えている。実績においては考課で評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会の年間計画を作成し、目標を設定している。研修受講後は報告書の作成、ホーム内での報告も行い、日々のケアに活かす取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し情報交換し交流を深めている。新型コロナウイルス感染防止のため現在は電話やメールで情報交換をしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の身体状況や家族の思い、希望、不安等に耳を傾け、把握するように努めている。また、ケアマネージャーとの情報交換や他施設と情報交換を密にして、関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談する等、直接話を聞く機会を設け、現在の状況や思い、今後望むこと等を把握し、意識しながら対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の想いや利用者様の状態を把握し、できること、できないことを見極め、柔軟に対応している。すぐに対応できないときは方策を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々一緒に掃除をしたり、食後の片付けをしながらコミュニケーションを図ることで、利用者様との距離を縮め、お互いを理解し、信頼関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止に伴い、現在は家族の面会を控えていただいている。毎月1度の家族へのお便りや電話等で詳しく状況を説明し、利用者様ができることを一緒に考え共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	はがきや手紙、電話等の支援を行い、関係継続に努めている。また、利用者様の自宅周辺をドライブしたり馴染みの店に立ち寄る等支援している。現在は新型コロナウイルス感染防止のため外出等は控えている。	入所時のアセスメントや、家族からの聞き取り等により把握しており、年賀状や電話をかけられる支援を行っている。現在はコロナの影響により出掛けられないが、馴染みの美容院、買い物、お墓、自宅等、希望する場所へ出掛けられるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、トラブル回避や孤立させないように環境面の配慮や精神面の支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には今後も相談等応じることを伝えたり、関係施設との情報交換を継続的に行い環境や暮らし方の継続性に配慮してもらえるように働きかけている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と共に暮らす中で様々な話をする ことで、希望や意向を見つけている。困難な 場合は利用者様の立場で検討し、必要に応 じて家族等から情報収集している。	職員は、利用者の思いや希望、意向等把握 できるように声掛けをしている。また、利用者 の意向等が十分把握できない場合は、日常 の会話や勉強会を行う等、全職員が利用者 の視点に立って把握できるように努めている 。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	利用者様や家族、ケアマネージャーからの 話や情報提供で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを通して利用者様の行動パ ターン、生活リズムの把握に努めている。心 身状態等の変化がある場合は、申し送りや 記録を残して職員間で情報を共有してい る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	短期目標に合わせ、モニタリング、アセスメ ントを行い評価している。その後、カンファ レンス会議を開催し、職員間で十分に話し合 いながら意見交換をして介護計画に反映し ている。	介護計画は、センター方式を活用し、利用者 本位の個別具体的なものとなっている。ま た、介護計画作成時には、可能な限り利用 者の意見を聞くほか、必要に応じて、家族や 関係者等、利用者をよく知る人たちの意見や 気づきを反映させたものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に添った記録や不穏行動、職員の 気づき等、介護計画の見直しに活用してい る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様と家族との暮らしの継続性を支援 するために外出や外泊等、家族からの希望 にも応じている。現在は新型コロナウイルス 感染防止のため、面会や外出、外泊等は控 えていただき、手紙や電話等で対応してい る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のボランティアによる訪問等で 一緒に楽しむ時間を共有している。現在は 新型コロナウイルス感染防止のため、訪問 等は控えていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族の意向に合わせて受診先を決めている。心身状態の変化等があれば、受診時に医療機関に手紙や電話等で相談している。本人の状態によって職員も付き添い支援している。	これまでの受診状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。また、受診内容や受診結果についても、家族や医療機関との共有が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護記録書にて1週間の情報提供を行い、毎週金曜日の訪問日には個々の健康状態を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護師との連携により適時関係医療機関に情報提供し、対応してもらえることで、受診や入院等をスムーズに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについての指針を説明し、現在の思いをアンケートで確認している。医療機関や訪問看護ステーション、家族、ケアマネージャー、職員で適時カンファレンス会議を開いて看取りに取り組んでいる。	「看取り指針」が作成され、重度化や終末期の対応について事業所としての方針を明確にしている。また、入居時から重度化した場合に備えて、利用者や家族、医療機関との話し合いが行われているほか、状況変化がある場合はその都度話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習会、勉強会等で技術を高めたりマニュアルを整備し対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害等のマニュアルを整備し、避難訓練や運営推進会議の場で地域の方の意見をいただくようにしている。避難訓練を定期的実施している。	夜間を想定した避難訓練が年2回実施されている。また災害時に備え、消防団員の訓練や住民の協力を踏まえ、運営推進会議の日に避難訓練を実施したことがある。また、災害時に備えて、食料や飲料水、オムツ類、ストーブ等を用意している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	守秘義務や個人情報の取り扱いについて勉強会に参加して理解を深め、人格を尊重した声掛けや呼び掛けに努めている。	職員は、利用者の話をよく聞き、言動を否定したり拒否せず、常に受け入れる姿勢で業務を行っている。また、排泄や入浴の声掛けも利用者の羞恥心に配慮するとともに、守秘義務や個人情報の取り扱いについても配慮して業務を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との信頼関係を築きながら、利用者様が選択できる声掛けや、日々の生活から利用者様の好み等を知ることに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり自由に過ごしたい場所で思い思いに過ごせるように見守ったり、その都度声掛けをしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得てなじみの美容院に連れて行っていただいたり、好みの服を持ってきていただいたりしている。また、着替えのときはどれを着たいのか本人に確認しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	世間話をしながらテーブル拭きや食器拭き等している。利用者様に合った形状での提供、調理方法の変更等、おいしくいただける工夫をしている。夕食は職員も一緒に同席し、食事を摂っている。	献立は利用者の希望や好み等に配慮しているほか、新聞折り込みチラシに掲載されたものに好みがある場合は、イベントの際に提供する等している。また、調理の下ごしらえや後片付け等、利用者ができることは職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事や水分摂取量を把握して、そのときに応じて医師や看護師に相談しながら支援している。嚥下機能回復を目的に食前に嚥下体操をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケアを行っている。自力で行う場合は、確認の声掛けや付き添い、見守り等の支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄板での管理をしながら個々に合わせた声掛けや対応に心掛けている。日中はほぼトイレでの排泄を支援している。一人ひとりのパターンに応じて事前に誘導している。	利用者個人の排泄パターンを記録し把握しているほか、排泄の自立支援のために個人の排泄時間やパターンに応じた事前誘導を行う等の支援が行われている。また、排泄時の誘導や声掛け、失禁時についても利用者の羞恥心やプライバシーに十分配慮して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分摂取、食事内容、体質等を把握しながら運動等を取り入れ、自然排便を心掛けている。また、状況に応じて下剤の量を変えながら排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	時間や順番等、希望を聞きながら入浴していただき、拒否があるときは無理には勧めず、時間を置いてから再度声掛けしたり、着替えや足浴等で対応している。	入浴は基本週2回となっており、利用者の入浴習慣や好みを把握して行われている。また、その日の体調等も考慮し、浴槽のつかり過ぎや洗身に対して適切な支援や声掛けに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間に就寝できるように支援している。日中も必要に応じてお昼寝を勧めたり、夜間寝つきが悪い場合は、必要に応じて眠剤を服用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテにお薬情報をファイルし常に確認できるようにしている。変更の場合は申し送りノートで周知している。変更時の服薬による状態の経過や変化は記録して家族や医師に相談して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブや買い物、お話、訪問等、月毎にイベントを企画し、楽しんでいただけるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	月の行事を利用し外出企画を計画して支援したり、家族の協力を得ながら希望に添えるように努めている。	利用者が行きたい場所を把握しており、現在はコロナの影響により遠出はできないが、いつもは花見やブドウ狩り、買い物等、利用者の希望を取り入れている。また、利用者の身体状況に合わせ、移動距離や移動方法に配慮した支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様、家族とよく話し合い、所持可能な金額を決め、必要に応じて利用者様が所持する等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話でいつでもかけられるように支援している。また、家族との年賀状でのやり取り等を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を利用して自然な光で日中は落ち着いた雰囲気となっている。装飾は少なめで配色にも注意し、場所が分かる工夫をしている。また、季節に合わせて玄関やフロア等に装飾を行い、掲示板に写真等を飾ったり、生活音や室温等を適切に管理している。	共用空間である広いホールにはテーブルとソファが備えられ、家庭的で落ち着いて過ごすことができる環境となっているほか、利用者や職員の声、テレビの音も適切に管理されている。また、室内の明るさや温度・湿度についても適切に管理されており、ホーム内には、季節を感じられる装飾品も飾られており、家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席のほか、数人掛けのソファを設置し利用者様同士が自由に話ができる空間づくりをしている。(フロア・居室)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、特に問題がなければ本人が使い慣れたものを使用して貰っている。また、居室担当職員は利用者様の意向を聞きながら居室づくりをしている。	居室には、入居前から使用していたり愛用していたもの等、馴染みのものを持ってきてもらうように家族に働きかけている。居室への持ち込みが少ない利用者には、利用者や家族の意向を確認した上で、職員と一緒に利用者にあった居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は段差がなく、廊下や居室には手すりを取り付け、場所が分かるように工夫等をしている。床は全てクッションフロアにしている。また、居室やトイレ等の場所が一目で分かるような表示工夫をしている。		